パソナ総合研究所 ディスカッションペーパー （ワークショップ講演記録）

「日本の創造的対応を求めて
～規制緩和はイノベーションを誘発する～」

■開催：2019 年 1 月
■講師：法政大学院イノベーション・マネジメト研究科教授
一橋大学イノベーションセンター特任教授／日本元気塾塾長　米倉誠一郎氏

●近著『イノベーターたちの日本史』（東洋経済新報社）で指摘したように、世界中の人たちと同じように日本人もイノベーティブな可能性を持った国民であり、開国・植民地化・独立・近代化という荒波のように押し寄せる難題に挑んだ幕末・明治の日本人は十分に創造的だった。
●鄧小平の「一国二制度」とソ連邦の崩壊は、社会主義は富の分配には優れたシステムかもしれないが、新しい富を創造するためにはイノベーションを核とした資本主義メカニズムが勝っていることを証明した。資本主義の下では「格差」は必ず生まれる。重要なのは格差を固定化させないことである。
●不況時に財政出動して景気回復を図るケインズ政策は、有効需要を創出すれば供給は後から追い付いてくるという発想だが、現在は事情が異なる。不足しているのは需要ではなくマッチングであり、ビジネスの中心はモノから「コト・体験」に移っている。資本主義は競争を通じて顧客により良いものを提供できる社会であり、規制緩和がイノベーションを促進する。
●かつて世界第 3 位だった日本の 1 人当たり名目 GDP は今や世界 25 位に落ち、この 20 年間 GDP はほとんど伸びていない。20 年間もの間結果が出ないのであれば、やり方を変えるしかない。働き方を高賃金・高生産性・高多様性を可能にする「ワークスマート・ワークダイバース」に変え、企業は失敗を許容し、すべてをスピードアップすることである。
●イノベーションにとって多様性は重要である。異なる視点が発想転換を生むからである。Design Thinking は、基本的には問題解決（Problem Solving）であり、その本質は「Fail Early, Fail Often」（早く失敗して、たくさん失敗する）こと。日本企業の最大の問題は、失敗を許容せず対応が遅いことであり、失敗をファシリテートして、そこから学ぶことが大事である。
●いまや AI による分散型再生可能エネルギーの新しい組み合わせ（Smart House／Smart City）の時代であり、日本にもプラットフォームの領域は残されている。テレビをホームエネルギーマネジメントの中心に置き、それをベースに冷蔵庫とエアコンと洗濯機の最適マネジメントを行う Smart Home が実現できれば、日本は IoT でも勝てる。ポイントは「つ

なぐ」という発想である。

●アイデアがアイデアを生み、競争に敗れた人が再度挑戦するという創造的対応の連鎖が資本主義を動かしていく。一方、規制はイノベーションを阻害する。だからこそ規制を撤廃しなければならない。